

「学校の森」 取組み内容についてのアンケート回答用紙

1、定期的に活用している森の有無

① 有り 、 無し

2、1が有りの場合の森の所在地

1) 学校敷地内／隣接地 、 2) 徒歩 30 分以内 、

③ 徒歩圏外

(自転車 30 分以内、車で 10 分以内、車で 30 分以内、④ 車で 30 分超)

3、権利関係

1) 学校所有

2) 分収造林契約 (契約期間 :)

3) 悠々の森協定を締結して国有林を活用

4) 県／市町村／財産区有林を活用 (活用の根拠契約 有り／無し／不明)

5) 私有林を活用 (森林整備義務を伴う契約締結、その他、不明)

⑥ 公共の施設を使用 (具体的には、 野根山街道)

7) 不明

8) その他 ()

4、取組期間

① 震災前から (開始時期 西暦 1984 年ごろから)

はっきりした記録は残っていませんが、保護者等に聞くと自分が子どものころも行ったということなどで、30年以上前からと思われます。

2) 震災後から (開始時期 西暦 年)

5、授業時間か否か

① 授業時間 (通常の授業 、 ② 校外学習)

2) 授業時間以外 (休み時間 、 放課後 、 休日)

【以下授業で活用している学校への質問】

6-1、授業科目（重複あり）

総合学習、生活、理科、社会、国語、道徳、図工、
その他（ ）

7-1、各学年の年間授業時間数

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
2	2	3	3	5	5	20

8-1、実施する季節（重複あり）

- ① 春、夏、秋、冬
2) 学年による（ ）
3) 年一回、年複数回

9-1、授業で森を活用する視点について

- ① 知識ではなく体験で初めて得られることに意義
具体的には、(知識と情意面の融合をはかり、生きて働く力を育てることができる)
2) 総合学習のテーマとして森の活用が相応しいと判断
具体的には、()
3) 総合学習以外にも学習効果が得られる科目がある
具体的には、()
4) その他 ()

10-1、実施プログラムの内容／視点

- 1) 震災を受けて防災・減災の視点を含めている、いない
2) 実施プログラムの計画書等がある、ない
ある場合はコピーを同封して下さい。

※「野根山街道散策計画」を添付します。

【以下授業外で活用している学校への質問】

6-2、授業での活用を行っていない理由

- 1) 森での活動を授業に取り込む必要を特段感じていない、
- 2) 森での活動を授業に取り込みたいが現時点では障害がある
- 3) その他 ()

7-2、6-2で2)と回答した学校へ 授業で活用する上での障害について

- 1) 各教科で習得すべき単元数が増加し、余裕が無い
- 2) 総合学習に相応しいテーマが森の活用以外に別にある
- 3) 森はあるが整備されていないので利用できない
- 4) 先生だけでは指導ができず、外部の指導者もいない
- 5) 森の整備にはお金がかかるので、継続して活用することが困難
- 6) その他 ()

【以下全ての学校への質問】

11、指導者(重複あり)

- 1) 教師のみ
- 2) NPO等の学外団体
- 3) 教師と学外団体の協同
- 4) その他 ()

12、学校以外の運営指導協力者がおられる場合

具体的には (安芸森林管理署)

13、年間運営経費 (数年に一度の森林整備費用は除く)

- 1) なし
- 2) 1万円未満
- 3) 1万円以上
- 4) 3万円以上
- 5) 5万円以上
- 6) 10万円以上 (具体的には、12万円：登山口までのジャンボタクシー代)

14、運営経費の支出先

- 1) 指導者謝礼
- 2) 歩道刈り払い等の毎年発生する森林整備の外注費用
- 3) 樹名板等の林内設置物の費用
- 4) 児童／生徒の森までの往復交通費
- 5) その他 ()

15、運営経費の捻出

- 1) 学校運営費で賄う
- 2) 義援金からの補助と児童の家庭から集金
- 3) PTAの寄付
- 4) 市の予算 (町の予算：学校教育費として予算化)
- 5) その他 ()

16、数年一度の大規模な森林整備費用

- 1) 発生する、発生しない
各々の理由 ()
- 2) 発生する場合の金額 (万円)
- 3) その資金捻出 (具体的には、)

17、必要な道具(重複あり)

- なし
- 2) 森林整備に使う道具
- 3) 軍手
- 4) 長靴
- 5) ノコギリ、鎌
- 6) 木工関係の道具
- 7) 観察板・虫取り網・飼育ケース
- 8) その他 ()

18、17の道具の調達

- 1) 学校で購入
- 2) 外部からの寄付
- 3) 各自家庭から持参
- 4) NPOからの借り入れ
- 5) その他 ()

19、昨年度の活動と今年度の活動比較

- 1) 昨年度より進化
具体的には ()
- 2) 昨年度より後退
具体的には ()
- 3) 昨年度と変わらない
- 4) 今年度から開始
- 5) 昨年度のことは判らない
- 6) その他 ()

20、来年度の活動についての展望

- ① 今年度より進化させたい
具体的には（ 事前学習や資料を充実させる ）
- 2) 今年度より後退する危惧あり
具体的には（ ）
- 3) 異動もあり来年度のことは判らない
- 4) その他（ ）

21、活動継続に向けた対応

- 1) 特に必要性を感じない
- 2) 必要性は感じるが対応は出来ていない
- ③ 一定対応している
具体的には、
- ① PTA を応援団に育成／学校評価での実績づくり
- ② 転入してきた先生を活動の推進役に育成
- ③ 学外の運営協力者／団体を学校経営にも参画させている
- ④ 教育委員会を応援団に育成／学校評価での実績づくり
- ⑤ 森の活用校で連携して活動の成果を普遍的なものにする
- ⑥ その他（ ）

22、活動中止の危機の有無

有り、無し

ありの場合以下のどの背景か？

- 1) 所有者との関係で森の使用が出来なくなる
- 2) 森の整備の担い手がいなくなって藪に戻ってしまう
- 3) 森の活動で事故が起きて安全管理面での問題を指摘される
- 4) 教室内での授業時間増加の要請／学力低下
- 5) その他（ ）

23、活動中止の要因として考えられること

特になし、想定できる

想定できる場合以下のどの背景か？

- 1) 校長交代
- 2) PTA 会長交代
- 3) 指導役の先生の異動
- 4) 協力団体の中断
- 5) 教育委員会の方針変更
- 6) 森の所有者との関係悪化
- 7) その他 ()

24、フィールドの地域開放

- 1) 学校だけで使用
- 2) 地域の人々が森林整備にも協力しており開放している
- 3) 現在公共施設を学校の森として活用している
- 4) 地域の防災拠点でもあり、開放している
- 5) その他 (6年生は野根山街道をフィールドとしており、一般に開放されている)

25、森の活用についてのPTAの関わり

- 1) 全面賛成
- 2) 具体的に森の活動について見守りでボランティア協力
- 3) 具体的に森の整備に協力
- 4) その他 ()
- 5) PTAは無関心

26、PTAに協力を得ている場合の具体記述

6年の校外学習として行っている野根山街道散策に、6年保護者も参加している。

27、重視していること(重複あり)

- ① 木の名前を知ること森に興味を持つこと
- ② 自然の中で伸び伸びと過ごすこと
- 3) 生態系のつながりの理解
- 4) 自然は脅威にもなれば人間を守ってくれることの理解
- ⑤ 森の中で仲間と助け合うこと
- 6) 震災後の子どもたちの心のケア
- 7) 防災や減災意識の高揚
- 8) その他 ()

28、困っていること(重複あり)

- 1) なし
- ② フィールドが遠い
- 3) フィールドが整備されていない
- 4) 登る際の傾斜が急である
- 5) 指導者の協力が継続できるかどうか
- 6) その他 ()

29、自由記入欄

野根山街道以外の活動
① 1年 生活科で校庭の木々や草原を使って、季節の植物・生き物を見つける活動
② 2年 米ヶ岡生活体験学校の近くの畑をかりての芋の栽培
③ 3年 社会科見学で牧野植物園に出かけ、植物探しゲーム等の活動
④ 4年 年度によって違いますが、高知県森林総合センター等で山に関係する活動
⑤ 5年 米ヶ岡生活体験学校の近くの田をかりて、米作り